

## —2020 年競技規則改正通達—

今年度より、水戸市サッカー協会各種別委員会宛「競技規則改正」について改正箇所の詳細を通知いたします。なお、審判委員会主催による競技規則改正説明会も実施いたしますので、より一層理解を深めることにより「安全で公平・公正」なサッカー競技を楽しんでいただけますようお願いいたします。

2020 年 1 月 15 日

審判委員会

## 【競技規則改正説明】

### 第3条 競技者

#### 『交代の進め方』

- 1.交代する競技者は自身がいる境界線の最も近い地点から出なければならない。ただし、ハーフェーラインのところから直接速やかに、また（安全・保安・負傷のため）他の地点から出るようにと主審が示した場合は主審の指示に従う。

### 第4条 競技者の用具

#### 『シャツの色』

- 1.シャツ各袖の主たる色と同じ色で、1色とする。
- 2.シャツの各袖とまったく同じ色の柄にする。（柄の袖の場合も同じ柄にする）

### 第5条 主審

#### 『主審の決定』

- 1.前後半終了時に主審が競技のフィールドを離れてレフェリーレビューエリア（RRA）へ行く、または競技者に競技のフィールドへ戻るよう指示しても、これは前後半終了前に起こった事象に対する決定の変更を妨げるものではない。

い。

**解説：**例えば、試合終了直前に競技者が自身のペナルティエリア内で相手競技者を乱暴に殴ったが主審は気が付かずに試合を終了してしまった。その事実について副審から助言をもらった主審は試合終了を取り消して、暴力をした競技者を退場させ、ペナルティキックを与えることができる。試合はペナルティキックの結果を待って終了する。

2.他の審判員が反則を認識し、プレーが再開される前にその反則を主審に伝えようとした場合のみ、懲戒の罰則はプレー再開後に行うことができる。ただしその懲戒の罰則に応じた再開方法は適用しない。

**解説：**プレーが再開される前に警告・退場の反則を他の審判員が認識し主審に伝えようと試みたが主審が気付かずに試合は再開されてしまった。今回の改正ではプレーの再開がされる前に他の審判員がその事実を主審に伝えようとした場合に限り、次にプレーが停止した時に警告・退場を示すことができる。

## 『職務と権限』

1.責任ある態度で行動しないチーム役員に対し、警告・退場を示すことができるようになりました。またその者が特定できない場合がテクニカルエリアにいるより上位の役員（監督またはコーチ）が罰則を受けることになる。

2.負傷した競技者（ゴールキーパー除く）は競技のフィールド内で治療を受けることができないが、ペナルティキックが与えられ、負傷した競技者がキッカーの場合にはフィールド内で治療を受けられる。

## 第7条 試合時間

### 『空費された時間の追加』

1.飲水タイムやクーリングブ레이크など競技会規定で認められている医療上の理由による停止。

**解説:** 飲水タイムやクーリングブ레이크により空費された時間もしっかりとアディショナルタイムとして追加する。

## 第8条 プレーの開始および再開

### 『キックオフ』

- 1.コイントスに勝ったチームが前半に攻めるゴールか、またはキックオフを決めることができるようになった。(後半のキックオフは今まで通り)

#### 『ドロップボール』

1. ボールがペナルティエリア内にある場合とボールが最後に触れられたのがペナルティエリア内であった場合にプレーが停止された場合は、次の再開はゴールキーパーにドロップして再開する。
2. その他のすべてのケースにおいてのドロップは最後に競技者・外的要因・審判員に触れた位置から、最後にボールに触れたチームの競技者の1人にドロップして試合を再開する。(但し、味方を含めすべての競技者はその地点から4m以上離れなければならない)

## 第9条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー

#### 『ボールアウトオブプレー』

1. ボールが審判員に触れ、フィールド内にあり次のような場合には、試合を停止し、最後に触れたチームへボールをドロップして再開する。

\* 審判員に触れて大きなチャンスとなる攻撃になった場合

\* ボールが直接ゴールに入った場合

\* ボールを保持するチームが替わった場合

## 第 10 条 試合結果の決定

『得点』

1. ゴールキーパーが相手のゴールにボールを直接投げ入れた場合にはゴールキックが与えられる。

## 第 12 条 ファウルと不正行為

『ボールを手または腕で扱う』

ハンドの反則となるケース

1. 手や腕をボールの方向へ動かし意図的にボールに触れる。
2. ボールに触れ、またはコントロールして得点する・得点の機会を作り出す。
3. 偶発的であっても手や腕から相手チームのゴールに直接得点する。
4. 手や腕を体より不自然に大きくしてボールに触れる。
5. 手や腕が競技者の肩より高い位置にあってボールに触れる。(但し、競技者が意図的にプレーをしたのちにボールがその競技者の手または腕に触れた場合にはハンドの反則とはしない) \* 自打球などの場合
6. 4.5.の反則については近くにいる別の競技者の頭または体（足を含む）か

ら競技者の手や腕に直接触れた場合でもハンドの反則となる。

### ハンドの反則とならないケース

1. 競技者自身の頭または体（足を含む）から直接触れる。\*ヘディングの競合いなどで頭に触れた後に手や腕に当たるケースなど・・・。
2. 近くにいた別の競技者の頭または体（足を含む）から直接触れる。
3. 手や腕が体の近くにあり不自然に競技者の体を大きくしていない。\*多少の範囲で体から手や腕が離れていても主審の判断で体を大きくしていないと判断した場合にはハンドは反則としない。
4. 競技者が倒れて体を支えるための手や腕が体と地面の間にある場合。\*体から横または縦に伸ばされていないことが条件。

### 『ゴールキーパーのハンドリング』

1. ゴールキーパーが自分のペナルティエリア内でバックパスやスローインから直接手で触れた場合には相手チームの**間接フリーキック**が与えられるが、その行為が相手の決定的な得点に機会を阻止、または大きなチャンスとなる攻撃を阻止した場合でも**警告・退場の懲戒罰にはならない**。

2. バックパスやスローインを直接受けたゴールキーパーがプレーに戻そうと試みてキックをしたがミスキックをしてしまった。慌ててそのボールを手または腕で扱ったとしてもプレー続けられる。

### 『カードの提示とプレーの再開』

1. 警告・退場と判断した場合、その処置を終えるまでプレーを再開できないが、主審が警告・退場の手続きを開始していなく反則を受けたチームが素早くフリーキックを行った場合にはその警告・退場の処置は次にプレーが止まったときにできる。その反則が決定的な得点の機会を阻止した反則であった場合には退場ではなく、警告の反則となる。

\*アドバンテージと同じ考えで、反則を受けたチームのプレーの速攻攻撃を保証してあげたことにより決定的な得点の機会の阻止が継続して続いたわけではないという解釈になります。(大きなチャンスの阻止であった場合には警告ではなく NO カードとなる)

### 『得点の喜び』

1. 競技者は得点の後にベンチなど一時的にフィールドを離れることは過度でなければ認められる、しかし喜びの為にフェンスによじ登ったり、



過度に相手を挑発したり、威嚇したりまたマスクや自身のユニフォームを被ったりする行為は警告の対象となる。今回の改正では**仮に得点と認められなかった場合**でもその競技者は**警告を示される**ことになった。

#### 『ファウルや不正行為の後のプレーの再開』

1. ボールがインプレー中に競技者が審判員・相手競技者・交代要員・交代して退いた競技者など**自分のチーム以外の者**に**ファールドの外で反則**をした場合は、**最も近い境界線上**から相手チームの**直接フリーキック**でプレーの再開をする。但し、その**位置がペナルティエリアの部分**であれば**ペナルティキックが相手チームに与えられる**。
2. 1.と同じケースで**自分のチーム関係者への反則**の場合には**最も近い境界線上**から相手チームの**間接フリーキック**でプレーは再開される。この場合には間接フリーキックなのでペナルティエリアの部分であっても境界線上から行う間接フリーキックでプレーを再開する。

## 第13条 フリーキック

#### 『間接フリーキックのシグナル』

1. 間接フリーキックが行われ**直接ゴールに入らないと判断された場合**には

挙げている片手を下ろしてもよい。

#### 『壁を作った場合のフリーキックの進め方』

1. 3人以上の壁を作ったフリーキックの場合、相手競技者はボールがインプレーになるまで（ボールが蹴られて明らかに動いた）はその壁から **1m以上離れなければいけない**。ボールがインプレーになる前に 1m以内に侵入した場合にはその位置から相手チームの**間接フリーキック**で再開する。（ただしボールから壁の距離は既に 9.15m計測されているので壁の前方方向に位置することは距離の反則にもなる）
2. ペナルティエリア内での守備側のフリーキックでプレーを再開する場合は**ボールが蹴られて明らかに動いた時点でインプレー**となるのでペナルティエリアを出るまで待つ必要がなくなった。但しいボールが**インプレーになる前**にペナルティエリアに侵入したりペナルティエリアに残った相手競技者が違反した場合（ペナ内に侵入やボールにチャレンジ）フリーキックのやり直しとなる。

## 第14条 ペナルティキック

### 『進め方』

1. ボールが蹴られるとき、守備側チームのゴールキーパーは少なくとも**片足の一部**をゴールラインに触れるか位置しなければならない。

## 第16条 ゴールキック

### 『進め方』

1. ボールは蹴られて**明らかに動いたとき**にインプレーとなる。

### 『反則と罰則』

1. ゴールキックが行われるとき、相手競技者がペナルティエリアから出る時間がなく残っていた場合、主審はプレーを続けさせることができる。ペナルティエリア内の守備側チームのフリーキック同様に**ボールがインプレーになれば**ボールがペナルティエリアを出なくてもプレー出来るようになった。但し、ボールが**インプレーになる前に**攻撃側競技者がペナルティエリア内に侵入したりペナルティエリア内に残った攻撃側競技者がボールやプレーにチャレンジした場合にはプレーを止めて、**ゴールキックをやり直す**。